

農業データ連携基盤 活用事例集

本資料は、農業データ連携基盤（WAGRI）の利用をご検討
いただいている皆様に対して、実証プロジェクト等での取組を参考
に、WAGRIで**実現できるサービス**や、WAGRI活用のメリットなど
をご紹介しますものです。

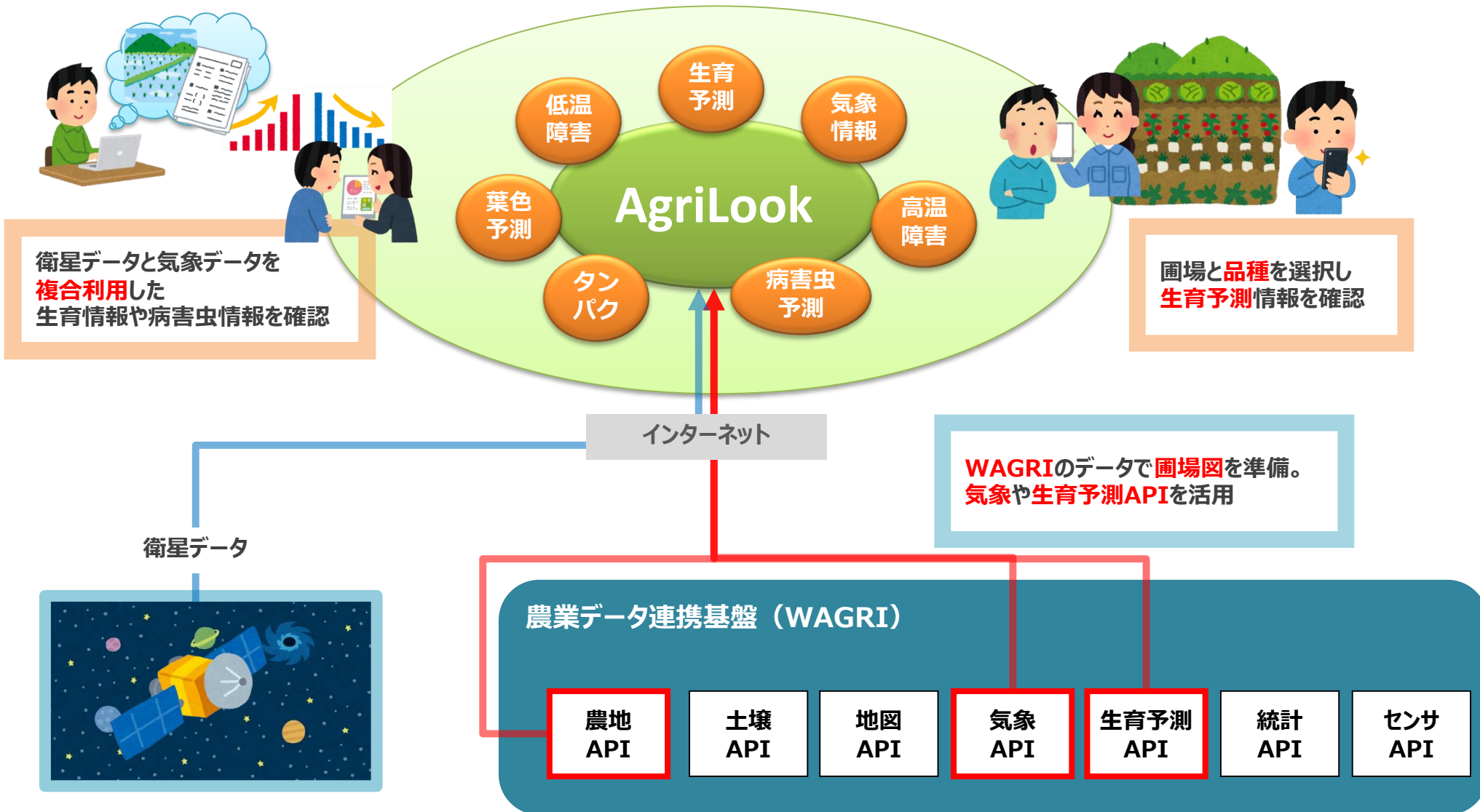
株式会社 ビジョンテックの取組事例

(ビジョンテックが提供する農業情報サービスの機能拡充にWAGRI APIをご活用)

- ビジョンテックでは衛星データと気象データを用いて広域の農作物生育情を提供し生産者の軽労化・効率化・品質の安定を目指した農業情報サービス「AgriLook」を提供しています。
- AgriLookは県などの自治体やJA、商社などを対象に国内外にサービスを展開しており、農作物の生育情報と病害虫情報などを広域、連続的に提供する事で圃場一筆に留まらず何十万筆もの圃場のきめ細かな栽培管理を行う事が出来ます。
- ビジョンテックは、AgriLookでWAGRIが提供する農地、気象、生育予測APIを活用して機能向上を実現しています。

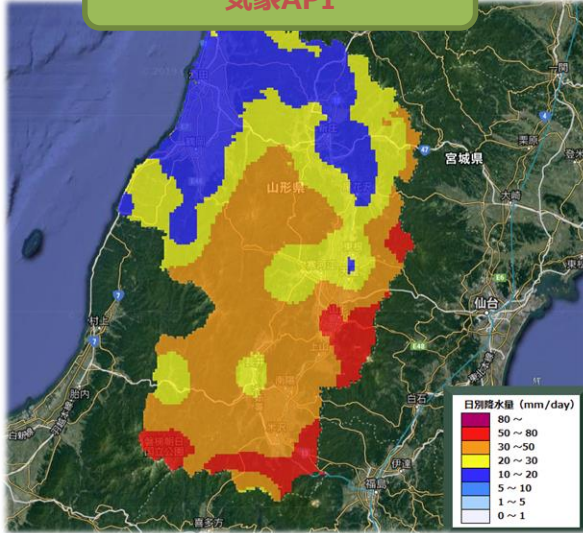
サービスの全体像（VTI）

ビジョンテックではWAGRIを活用して農業情報サービス「AgriLook」を構築し
生育ステージに応じた**施肥管理や病害虫対策等のきめ細かな栽培管理**を可能としています。



ビジョンテックがWAGRI APIを活用して機能拡充された「AgriLook」

気象メッシュマップ
気象API



圃場管理
農地API



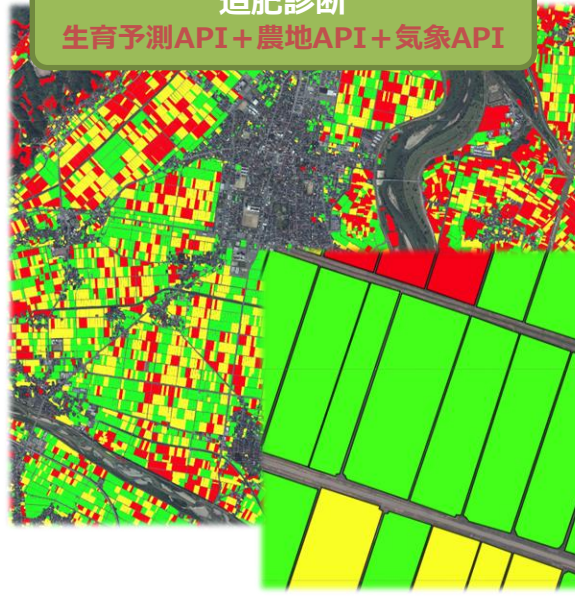
圃場管理
生育予測API



病虫害予測
農地API + 気象API



追肥診断
生育予測API + 農地API + 気象API



積算気温 (出穂後)
気象API



WAGRI活用によるユーザの皆様のメリット

	WAGRI活用のメリット	WAGRIを活用しない場合の対応等
コスト削減 筆ポリゴン の活用	圃場データ構築・購入に要するコストを大幅に削減 する事が出来る。	手作業での圃場データを構築、またはポリゴンデータ を購入 しなければならず労力・費用が上昇。
既存データの有効活用 筆ポリゴン の活用	各圃場の品種や面積などの情報を ポリゴンと紐づけて 利用する事により、品種別の地域分布など既存データの 「見える化」 を実現。	データが 様々な媒体に散乱 して保存されており、データ を確認、把握に労力・費用が掛かる。
栽培管理 生育予測 の活用	多様な品種に対応し、 モデル調整 機能を備えた生育 予測により 当年・過去の気象状況 はもちろん、 圃場の 特性 を加味した生育ステージ毎の 追肥 や 刈取り時期 の策定 など、きめ細かな栽培管理が可能。	経験則に基づいた栽培だけでは近年の異常気象など に対応できないと、品種・土壌（圃場特性）・気象な どの情報利用を試みるが、 情報が多量 でそれらを整理 し有効活用する事は困難。
リスク管理 生育予測 1kmメッシュ気象情報 の活用	【生産者】 広域 且つ 高精度 な気象データを基にした病虫害予測 情報を迅速に把握する事で、病虫害に対する リスク 管理 を行う事が可能。	近年の 異常気象 により、経験では対処しきれない高 温障害を始めとする病虫害による 作物被害 が発生。

ビジョンテックがご利用されたWAGRI API

利用したWAGRI API			利用目的
農地API	筆ポリゴンデータ	FieldPolygon	地図上に農地の区画情報を表示する。
気象API	メッシュ農業気象データ	WeatherMeshLbw	各地点の気象情報を参照可能にする。
生育予測API	水稻発育予測	GrowthVti	各圃場の水稻発育ステージ予測情報を参照可能にする。

WAGRI活用によるサービスプロバイダー様のメリット

	WAGRI活用のメリット	WAGRIを活用しない場合の対応等
WAGRIによる一元管理	様々なデータがWAGRIで一元管理されているためアクセスするだけで多種多様なデータを容易に複合利用することが可能。	各データ事に取得インターフェースが異なり、それぞれに対応したシステム構築が必要となり複合利用のハードルが高い。
親和性の高いデータ形式	WebAPIからは扱いの容易なjson形式でデータが取得出来るため、既存の自社サービスの付加価値として情報を利用する事が可能。	Webページからダウンロードやメディアなどの媒体からデータを取得した場合、自社サービスへの取り込むまでに複数の段階的なデータ変更作業が必要。
新たなサービスの立ち上げ	農業ICTのベースとなる各分野の情報を利用する事が可能であり、新規サービスの立ち上げに要する労力を大幅に削減する事が可能であり、別分野からの参入時のハードルが下がる。	農業ICT業界への参入には、どのようなデータがユーザにとって有益であるか。データは何処からどのように取得したら良いか。実現したいイメージをビジネスとして構築する際のハードルが高い。